

若松東部の移動販売 発車



「若松ふれあい号」で民家を訪問し、生鮮品などを販売する牛島源さん(左)

「買い物弱者」支援

商店街もPR

若松区東部で生鮮3品や日用品などを軽トラックに積んで販売する移動販売事業が11月下旬、始まった。同区本町の商店街「明治町銀天街」で時計店と野菜店を経営する「牛島時計店」が国の補助金を活用し実施。日頃の買い物が困難なお年寄りなどの利便性を高めるだけでなく、商店街のPRも狙う。

銀天街の牛島さん

車は「若松ふれあい号」 菜、鮮魚など約100品目と命名。冷蔵機能を備えた を積み込んでいる。1地区 荷台には、銀天街内の店舗 に週2回のペースで訪れ、 などから仕入れた精肉や野 月々土曜日で約15地区を巡

軽トラに生鮮品など100品目 「息長い事業に」

回する。

牛島時計店は商店街の店舗と数年前から、ケアハウスなどで商品を販売する「出張商店街」に取り組んでいる。客から「移動手段がなく、日常の買い物が難しくなった」との声があり、市が2013年度に実施した買い物環境に関する調査結果をもとに経済産業省に補助金を申請。地域をさらにきめ細かく回れる移動販売事業への参入を決めた。

営業を始めた11月24日は坂が多い小石本村町を皮切りに、宮前町や小糸町など5地区を周回。刺し身やレタスなどを購入した河野八重子さん(83)は「これまではヘルパーさんに買い物をしてもらっていたが、実際に見て買いたい物があったら、とても助かる」とうれしそうだった。

同店の牛島源さん(34)は「商店街で扱う旬な食材を知ってもらい、新鮮なうちに食べてもらいたい。頻繁に買い物をするのが難しいお年寄りが気軽に利用できるよう、息の長い事業にしたい」と話している。

(木村知寛)